

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 放課後等デイサービス はびりす		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士等による専門的支援と、個別ニーズに特化した高品質なプログラムの提供	日常の疑問や不安に対し、送迎時の対話やメール等を通じて随時かつタイムリーな助言・共有を行っています。状況を詳細かつ分かりやすくお伝えする環境を整えています。	ご意見やご要望があればその都度検討し、個々の成長段階に合わせたプログラムの修正・アップデートを継続します。
2	柔軟な家族支援と、多様な児童との交流機会の確保	特定の形式に縛られず、きょうだい児の育ちに関する相談支援や他事例の共有など、実効性のある個別サポートを行っています。また、職員の子ども等を交えた活動を日常化し、多様な人間関係を体験できる場を提供しています。	引き続きご家族との対話を大切にしながら、現在の個別支援を土台として、将来のライフステージを見据えた支援体制の拡充に努めます。
3	安全管理の透明性と、安心感に繋がる情報発信	各種マニュアル(事故防止・災害・防犯等)に基づいた定期訓練を徹底しています。その様子を画像や動画でSNS等へ発信し、安全管理の「見える化」を図ることで、ご家族が安心してお預けいただける環境を構築しています。	訓練の振り返りを通じて計画の精度を高めるとともに、情報共有のあり方を常にブラッシュアップし、より満足度の高いサービスを追求します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会や他児童との交流機会の創出	近隣の保育園等との連携については、双方のスケジュール調整や安全確保の体制構築に慎重な協議が必要であり、実現までに時間を要しています。また、事業所内での専門的ケアの提供時間を維持しつつ外部へ赴くことの難しさが課題となっています。	外部機関との調整は継続しつつ、まずは事業所内で完結できる「職員の子どもたちとの定期的な交流」を先行実施し、多様な関わりの場を確保しています。この実績を積み上げ、地域へ向けた活動の具体化を目指します。
2	専門情報の周知と理解の促進	安全確保のための計画やマニュアル等は完備していますが、その詳細や日々の訓練内容が、全ての保護者様に十分に伝わっていない側面があります。	SNSを活用した活動内容の画像・動画配信を強化し、安全管理の取り組みを「見える化」します。送迎時の対話だけでなく、視覚的情報を併用することで、支援の質と安全対策への理解を深めていただけるよう努めます。
3			